地域・在宅看護論

【地域・在宅看護論の考え方】

地域・在宅看護の対象は小児から高齢者までと幅広い年齢層で、人々が生活している地域や、在宅において多様な場で看護を提供するものである。予防的ケアから健康の維持回復を目指すケア、安らかな死に至るまでのケアと、幅広い健康レベルを対象とした看護である。地域に暮らす人々のパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する必要がある。

近年、入院期間の短縮により在宅にて生活と治療を維持、継続していかなければならず、在宅看護においても医療機関と同レベルの医療、看護の提供が求められている。

社会の変化から、健康な介助を必要としない人々、地域で暮らすすべての人々を看護の対象とし「自助」「互助」を支援する必要があり、地域を意識して拡大していく必要がある。

看護師は診療の補助と日常生活援助の視点をもつ必要がある職種である。地域・在宅看護ではチーム全体の調整役としての役割が大きく多職種連携も重要である。

〔　目的　〕

地域・在宅で生活しながら療養する人々と家族を理解し、在宅援助方法の能力を養う。

〔　目標　〕

１．地域・在宅看護の社会的背景を踏まえ、地域で生活しながら療養する人々と家族の看護の必要性が理解できる。

２．地域・在宅看護の実践に必要な日常生活援助技術の方法が理解できる。

３．医療依存度の高い在宅療養者の看護の方法が理解できる。

４．地域・在宅で生活する療養者の看護過程の展開方法が理解できる。

【構成及び計画】

授業科目	単位数	時間数	学年別計画時間			備考
			1年	2年	3年	
在宅看護概論Ⅰ	1	30	30			講義・演習
在宅看護概論Ⅱ	1	15	15			講義・見学
在宅療養者と日常生活援助技術（Ⅰ）	1	30		30		講義・演習
在宅療養者と日常生活援助技術（Ⅱ）	1	30		30		講義・演習
在宅療養者の状態別看護	1	15		15		講義
在宅療養者の「事例演習」	1	15		15		講義・演習
	6	135	45	90		

地域・在宅看護論実習

臨地実習

実習科目	実習内容	単位（時間）	時期
地域・在宅看護論実習Ⅰ ＊保健福祉センター： ２日間 ＊シルバーフラット： ２日間 ＊介護保険施設：５日間	◎地域で暮らす人々の実際を理解する ＊シルバーフラット ＊デイサービス ＊特別養護老人ホーム ＊市役所 ＊保健福祉センター	１（45）	3 年次前期
地域・在宅看護論実習Ⅱ ＊訪問看護ステーション： ＊7 日間～8 日間を予定している！ ＊地域包括支援センター： 3 日間～4 日間	◎健康障害がある療養者・家族の看護の実際を理解する ◎多職種連携実習 ＊地域包括 ＊訪問看護ステーション	２（90）	３年次後期
		3（135）	

地域・在宅看護論実習Ⅰ　　１単位４５時間

〔　目的　〕地域・在宅で生活する人々の、保健、医療、福祉の役割に必要な基礎的な知識を養う。

〔　目標　〕1. 地域で生活する人々の生活、健康に対するニーズが理解できる
2. 地域で生活する人々の生活支援について理解できる
3. 地域で生活する人々の関係機関との連携について理解できる
4. 看護学生として節度ある態度で実習に臨むことができる

地域・在宅看護論実習Ⅱ　　２単位９０時間

〔　目的　〕地域・在宅で療養、生活する人々、家族の発達段階に応じた看護の実践ができる基礎的な能力を養う

〔　目標　〕1. 地域・在宅で療養する療養者、家族の健康状態や生活状況を総合的に理解できる
2. 地域・在宅で療養、生活する人々の自立に向けた援助が理解できる
3. 在宅で介護する家族の役割を知り、家族のセルフケア能力を支える必要性が理解できる
4. 地域・在宅で療養、生活する人々に必要な社会資源の活用を理解できる
5. 地域・在宅で療養、生活する人々及び家族の状況に応じた看護の実践が理解できる
6. 看護学生として節度ある態度で実習に臨むことができる

科目名	在宅看護概論Ⅰ	講　師	平本　智絵 奥山　智絵　他	単位数	1
				時間数	30

科目目的　:在宅看護の歴史や地域で暮らす人々とその家族の在宅看護に必要な基礎的知識を学ぶ。
地域での暮らしを支える看護の役割を具体的に考えることができる。

科目目標: 1. 地域在宅看護の概念と意義について理解できる。
2. 地域とその地域で暮らす人、療養する人々を理解する。
3. 家族、地域コミュニティを対象としてとらえることができる。
4. 地域・在宅看護に必要な社会資源や制度について理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 人々の暮らしと地域・在宅看護	1)地域・在宅看護とは 2)地域・在宅看護の背景 3)在宅看護の変遷
2回	2. 人々の暮らしの理解	1)暮らしとは 2)暮らしを支える看護
3回 4回	3. 暮らしの基盤としての 地域の理解	1)暮らしと地域 2)暮らしと地域を理解するための考え方 3)地域包括システム 4)地域共生社会
5～7回	地域・在宅看護の対象	1)地域・在宅看護の対象者 ①多様なライフステージ ②多様な健康レベル 2)家族の理解 ①家族とは(家族の定義、家族の多様化、家族の変遷等) ②家族の発達課題 ③家族システム(ジェノグラム、エコマップ等) ④家族の意思決定 3)対象者の理解と看護
8～9回	地域・在宅看護に必要な社会資源	1)介護保険制度・医療保険制度 2)公費負担制度(難病、障害者等) 3)権利擁護(アドボカシー) 4)訪問看護制度(介護・医療)
10～14回	地域の実際を知る	フィールドワーク　グループワーク

評価	筆記試験　課題 レポート　フィールドワーク　グループワーク
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践(医学書院) 国民衛生の動向
備考	

科目名	在宅看護概論Ⅱ	講　師	平本 智絵　他	単位数	1
				時間数	15

科目目的：地域・在宅の暮しの場における多職種連携と協働について学ぶ。

科目目標　：1. 地域・在宅の場における多職種連携と協働について理解できる。
2. 暮らしを支える最新の福祉機器をしり、よりよい暮らしへの多様なニーズを理解できる。

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 地域・在宅看護の実践の場	1）住まいの場（訪問看護等） 2）通所サービスの場 3）施設サービスの場 4）小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護 5）医療機関の場 6）地域の場
2～4回	2. 地域・在宅看護における多職種連携と協働	1）多職種連携と多職種協働とその意義 2）医療専門職との連携・協働 3）福祉・介護職との連携・協働 4）地域との連携・協働 5）多職種連携協働における看護師の役割
5回	3. 地域・在宅看護マネジメント	1）マネジメントとは 2）地域・在宅看護マネジメント
6～7回	4. 国際福祉機器展	1）暮らしを支えるさまざまな福祉機器、用具
評価	筆記試験　　レポート　　出席状況	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院） 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践（ 医学書院）	
備考	□	

科目名	講 師	平本 智絵 他	単位数	1
在宅療養者の日常生活援助技術Ⅰ			時間数	30

科目目的:地域在宅でのその人らしい暮らしの継続、QOLの維持・向上に向けた看護の基本を学ぶ。
科目目標:1. 在宅看護に必要な日常生活援助の方法が理解できる。
2. 在宅看護の対象・場の特徴を踏まえ、暮らしのあった日常生活援助を考えることができる。

講義回数	学 習 内 容	
1回	1. 訪問看護におけるマナー	1)服装や身だしなみ 2)基本的マナーの知識
2回	2. 日常生活を支える技術(食)	1)在宅における食事のアセスメント 2)経管栄養(PEG)、HPN(C Vポート)
3～5回	3. 日常生活を支える技術(排泄)	1)在宅における排泄のアセスメント 2)膀胱留置カテーテル 3)ストーマ看護 4)摘便
6～8回	4. 日常生活を支える技術 (活動、睡眠・休息)	1)睡眠・休息・生活動作のアセスメント 2)在宅の場での移乗・移動の技術 3)在宅看護のリハビリテーション
9～11回	5. 日常生活を支える技術(清潔)	1)清潔のアセスメント 2)在宅での清潔援助の実際(洗髪) 3)フットケア、爪の手入れ
12回	6. 創傷管理に関する技術	1)テープ類による皮膚トラブルの予防とケア 2)褥瘡予防・褥瘡ケア
13～14回	7. 呼吸を助ける援助技術	1)在宅酸素療法 2)在宅人工呼吸療法

評価	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)
備考	

科目名	講　師	平本　智絵	単位数	1
在宅療養者の日常生活援助技術Ⅱ			時間数	15

科目目的　:在宅看護のあらゆる日常の中にある看護について理解し、さらに看取りの看護について学ぶ。

科目目標　:1. 在宅看護における安全と健康危機管理について理解できる。
2. 外来受診、入院、退院、在宅療養への移行期でのさまざまな時期の地域・在宅看護を理解する。
3. 在宅でのエンド・オブ・ライフケアにおける看護の役割、援助方法を理解する。

講義回数	学　習　内　容	
1～2回	1. 在宅看護におけるリスクマネジメント	1)リスクマネジメントの概念 2)在宅看護におけるリスクの特徴 3)24時間対応 4)災害への備えと対応
3～4回	2. 地域・在宅における時期別看護	1)地域・在宅看護の時期 2)在宅療養移行期の看護 (1)退院調整と退院支援 (2)地域連携クリニカルパス (3)地域がん診療連携拠点病院
4～7回	3. 在宅看護とエンド・オブ・ライフケア	1)エンド・オブ・ライフケアの目的・意義 2)苦痛のない生活の維持 3)病状変化の予測と対応(終末期の症状) 4)精神的支援 5)看取り(エンゼルケア) 6)グリーフケア
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)	
備考		

科目名	講　師		単位数	1
在宅療養者の状態別看護		数井　学 他	時間数	15

科目目的　:在宅療養者の健康障害の特徴、またそれに応じた看護の実際を学ぶ。
科目目標　:1. 在宅医療の特徴とその実際を知る。
2.在宅における子どもとその家族への支援を理解する
3.在宅における様々な健康障害を持つ人々への支援を理解する

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 在宅医療の現状	1)在宅医療の現状 2)かかりつけ医の役割
2～3回	2. 在宅における精神障害者・家族への看護	1)精神障害の理解 2)精神障害者を支える在宅ケアシステム 3)精神障害者・家族への看護・事例
4～5回	3. 在宅における重症心身障害児ケア	1)重症心身障害児の理解 2)重症心身障害児を支える在宅ケアシステム　・看護 3)重症心身障害児をもつ家族の理解と家族支援 4)重症心身障害児・家族への支援事例
6～7回	4. 在宅看護と難病ケア	1)難病の理解 2)難病を支える在宅ケアシステム 3)難病療養者・家族への看護・事例
評価	筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院)	
備考		

科目名	講　師	平本 智絵	単位数	1
在宅療養者の事例演習			時間数	15

科目目的　:在宅ケア、治療を必要としている療養者、家族の理解を深め、看護実践に必要な知識や技術を学ぶ。

科目目標　:1. 事例展開を通して在宅看護の特徴を理解する

2. 療養者の望む生活を維持していくための社会資源を活用して支援する方法を理解する

講義回数	学　習　内　容	
1回	1. 在宅看護の特徴と看護の視点	1)在宅看護の対象(療養者と家族) 2)健康と生活への着目 3)療養者と家族の理解と意向 4)療養者と家族のエンパワメント、強み・弱み
2～7回	2. 在宅看護過程の事例展開	1)情報収集と情報の整理 2)関連図を用いたアセスメント 3)社会資源の活用 4)療養者と家族の課題抽出 5)看護計画の立案・評価・修正
評価	筆記テスト 事例看護過程提出	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 (医学書院) 地域・在宅看護過程　第2版 (医学書院)	
備考		